令和８年度第１回 広島市病院事業地方独立行政法人評価委員会 会議要旨

１　開催日時　令和 8 年 7 月 27 日（月）19 時 00 分～20 時 30 分

２　開催場所　広島市役所本庁舎 14 階　第 7 会議室

３　出 席 者

⑴　委　員

秋山委員長、板本委員、黒瀬委員、藤本委員、山本委員

⑵　地方独立行政法人広島市立病院機構

理事長、副理事長、本部事務局長、広島市民病院長、安佐市民病院長、舟入市民病院長、リハビリテーション病院長、本部事務局次長、本部事務局参事（事）看護管理担当課長、広島市民病院事務長、安佐市民病院事務長、舟入市民病院事務長、リハビリテーション病院事務長、財務課長、契約課長、施設整備課長、情報・ＤＸ推進課長、広島市民病院医事課長、経営管理課課長補佐

⑶　会計監査人

ＥＹ新日本有限責任監査法人　公認会計士

⑷　事務局

保健医療担当局長、市立病院担当部長、市立病院担当課長

４　議　事

⑴　地方独立行政法人広島市立病院機構の令和７年度業務実績及び第３期中期目標期間における業務実績に係る事実確認

５　公開・非公開の別

公開

６　傍 聴 者

一般　　０名

報道関係　０社

７　会議資料

資料１　令和８年度 第１回 広島市病院事業地方独立行政法人評価委員会審議事項についての説明資料

資料２　令和７年度 業務実績報告書

資料３　第３期中期目標期間業務実績報告書

参考資料１　各事業年度における業務の実績に関する評価について

参考資料２　中期目標期間における業務の実績に関する評価について

参考資料３　財務諸表　令和７年度（第１２期事業年度）

参考資料４　令和７年度決算説明資料

参考資料５　地方独立行政法人広島市立病院機構　中期目標（第３期）

参考資料６　地方独立行政法人広島市立病院機構　年度計画（令和７年度）

８　会議要旨

⑴　審議事項の説明について

・事務局（市立病院担当課長）が、資料１、参考資料１、参考資料２により説明。

⑵　令和７年度業務実績に関する評価について

ア　法人の自己評価の説明

・　市立病院機構（財務課長、経営管理課課長補佐）が、資料２、参考資料３、参考資料４により説明。

イ　質疑・意見交換

［黒瀬委員］

・　P24 の舟入市民病院の病院機能の有効活用について、病床利用率が目標値を下回っているのに、「３」と評価しているのはどのような理由か。

［市立病院機構（舟入市民病院事務長）］

・　病床利用率は目標値には届かなかったが、令和 12 年に小児医療機能が県の新病院へ移管することを見据え、地域包括ケア病床への転換などの取組を進めてきたことから、「３」と評価したものである。

［黒瀬委員］

・　P37 の資格取得の促進について、これは各病院において必要な資格取得者を計画的に養成しており、その必要な費用等を支援しているということか。

［市立病院機構（事務局参事（事）看護管理担当課長）］

・　平成 30 年度から資格取得支援制度や継続支援を行った結果、現在の認定看護師数に至っているものである。
・　しかし、医療の高度化や専門化に伴い活躍の場が増える一方、資格取得に時間がかかるため、なり手が少なくなっており、今後は、各病院で必要となる認定看護師等を機構全体として把握し、適正数や配置目標を定めていきたい。

［秋山委員長］

・　P28 のリハビリテーション病院の回復期リハビリテーション医療の充実について、在宅復帰率が向上しているが、どのような理由か。

［市立病院機構（リハビリテーション病院事務長）］

・　在宅復帰率が向上した要因としては、急性期医療を終えた患者を早期に受け入れ、365 日切れ目なく高度で専門的なリハビリテーション医療を提供したことに加え、多職種による認知症ケア等の支援体制を充実させたことが考えられる。

［秋山委員長］

・　P20 の安佐市民病院の低侵襲手術の拡充等において、ハイブリッド手術室件数が増えているが、どのような理由か。

［市立病院機構（安佐市民病院事務長）］

・　経カテーテル的大動脈弁置換術（ＴＡＶＩ）の手術件数が増えたほか、手術室としての稼働を高めるため、心臓や脳の高度な血管手術以外の手術も行ったことによるものである。

［藤本委員］
・　P38 の医療機器の整理・更新について、ＭＲＩの増設と更新、ハイブリッド手術血管造影・治療装置の更新により、「３」と評価しているが、財務諸表のキャッシュフロー計算書において、有形、無形固定資産の取得額が過去の整備費と比べて減少していると思う。
・　２期連続で大幅な赤字となったことで、定期預金を取り崩しても資金期末残高が約 66 億円となるなど、運転資金が大きく減少したことで計画どおりの整備ができなかったものはあるか。

［市立病院機構（財務課長）］
・　定期預金は、余剰資金が発生した際に資金運用として定期預金を行い、資金需要がある時に取り崩しているものである。
・　医療機器は計画的に更新機器を選定しており、その整備費用は、起債を財源とした市からの長期借入金で賄っているため、一度に資金を圧迫するものではなく、計画どおりの整備を行った。

［板本委員］
・　P69 の患者満足度が、リハビリテーション病院以外の３病院で上昇しており、特に安佐市民病院は大きく上がっているが、どのような理由か。また、評価は５段階評価か。

［市立病院機構（安佐市民病院事務長）］
・　当院のアンケート結果においては、院内の案内に係る満足度が大きく上がっており、外来患者向けの呼び出しアプリの登録件数が増えて、利便性を感じる患者が増えたことが要因と思われる。

［市立病院機構（安佐市民病院長）］
・　呼び出しアプリは、累計で１万 3000 人が登録しており、院内や駐車場の車内中でも呼び出し音で知らせるため、満足度の向上に貢献していると考えている。

［市立病院機構（広島市民病院事務長）］
・　評価は、とても満足、やや満足、普通、やや不満、とても不満の５段階評価で、とても満足とやや満足の割合により満足度を計っている。

［山本委員］
・　令和６，７年度では収支があまり変わらないにもかかわらず、資料２別紙の財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置の集計評価が、令和６年度の自己評価が「３」であるのに対し、令和７年度の自己評価を「４」としているのは、どのような理由か。

［市立病院機構（事務局次長）］
・　経営の安定化の推進の大項目においては、各小項目を「３」または「４」と評価している。市の評価基準において、すべての小項目評価が３から５の場合、大項目評価は「４」とされており、これを当てはめて「４」と評価したものである。

[板本委員]
・　ＲＰＡの活用などＤＸによる業務改善により、各職種において、時間外勤務が減少していると思うが、960 時間以上の時間外勤務を行うＢ水準の医師はどの程度減っているか。また、医師の時間外勤務はどの程度減っているか。

[市立病院機構（事務局次長）]
・　市立病院機構全体で、Ｂ水準の医師は、令和４年度の 53 人から令和７年度は 45 人に減少した。第４期中期計画においては、令和 11 年度に 30 人にまで削減する目標としている。
・　また、医師１人当たりの平均時間外勤務は、令和４年度は約 595 時間であったが、令和７年度は約 585 時間となっている。

[市立病院機構（安佐市民病院長）]
・　現在、約 300 のＲＰＡのシナリオがあるが、シナリオ数が 240 程度の時点で院内職員にアンケートを取ったところ、時間外勤務が全職員で 1,250 時間縮減ができているという結果であった。

[市立病院機構（広島市民病院長）]
・　ＤＸの推進、医療クラークの積極的な活用、チーム制の導入、意識改革といった取組により時間外勤務が少しずつ減少している。
・　また、令和８年度の診療報酬改定において、時間外に係る加算の算定要件が緩和されたため、チーム制をより推進することができるようになった。

[藤本委員]
・　令和６年度の評価委員会において、達成困難な黒字目標を立てて赤字となるより、実現可能な赤字目標を立てて達成する方が良いという議論があったと思う。
・　P112 の中期目標期間中の経常収支の黒字化について、経常収支比率は目標値 92.9%に対して、令和７年度実績が 95.3%となっており、令和６年度の「２」の評価から令和７年度は「３」と評価を上げることは問題ないと思う。
・　令和８年度は、診療報酬改定等を踏まえ、どのように計画しているか。

[市立病院機構（財務課長）]
・　広島市民病院が 103.6%、安佐市民病院が 98.4%、舟入市民病院が 92.8%、リハビリテーション病院が 98.4%を目標としている。

[秋山委員長]
・　P114 の経費の削減において、どのような取組が効果があったと考えているか。

[市立病院機構（財務課長）]
・　職員の時間外勤務の縮減が、特に効果が大きく、時間外勤務時間数は４病院全体で令和６年度と比較して 42,610 時間縮減した。

[山本委員]
・　時間外勤務が大幅に減ったことで、職員から収入が減って困ったといった意見はあったか。

［市立病院機構（副理事長）］
・　そのような意見は聞いていない。
・　時間外勤務が減り、効率的に仕事をすることで、年休取得につながっている。
・　これからは、職員の福利厚生の充実に重点を置く必要があると考えており、時間外勤務の縮減により、仕事や私生活の充実といった職員の満足度を高める環境整備に取り組んでいきたい。

［市立病院機構（広島市民病院長）］
・　時間外勤務の縮減は、長時間勤務となっている医師の身体的負担が減るため、良いと考えている。
・　当院において、時間外勤務が月 80 時間を超えた医師は、令和４年度の延べ 113 人から令和７年度には延べ 91 人に減少した。また、月 100 時間を超えた医師についても、令和４年度の延べ 63 人から令和７年度には延べ 22 人へと大幅に減少した。

［市立病院機構（事務局参事（事）看護管理担当課長）］
・　看護師については、広島市民病院と安佐市民病院における変則２交代制の導入により、時間外勤務が大幅に縮減された。
・　看護師へのアンケートにおいて、時間外勤務の縮減がワークライフバランスの充実につながっているという結果が出ている。

［秋山委員長］
・　ＳＮＳによる情報発信を行っているが、職員から苦情などはなかったか。

［市立病院機構（安佐市民病院長）］
・　SNS は安佐市民病院から始めたが、プライバシーなどの問題があるため、院内の広報委員会で運用規定を作成し、職員に動画に出る同意を得ることや発信内容の確認の徹底など、適切に運用している。
・　SNS による情報発信の一番の効果は、見学生が増えたことである。令和５年度と令和６年度では、看護学生の見学生が 38 人から 78 人に、医学生では 77 人から 124 人に増加しており、採用試験への応募などにつながっていると考えている。

［市立病院機構（事務局次長）］
・　看護師の一般試験における競争倍率について、令和４年は 1.12 倍であったが、令和８年度では 3.16 倍まで上がっている。ＳＮＳにより、病院の状況がよく分かるとことで、高い評価を得ていると考えている。

［市立病院機構（理事長）］
・　安佐市民病院では、積極的にＳＮＳの発信をしており、情報発信を行う職員に負担がかかっている面はある。
・　ＳＮＳの発信やＤＸについて、将来的に重点化していくことは必要だと考えている。

［秋山委員長］
・　以前は、合格しても辞退する看護師がいたようだが、改善されているか。

［市立病院機構（事務局参事（事）看護管理担当課長）］

・　ＳＮＳにより、先輩看護師の働く様子が把握できることで、辞退する看護師の割合は大幅に減っている。

⑶　第３期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価について

ア　法人の自己評価の説明

・市立病院機構（経営管理課課長補佐）が、資料４により説明。

イ　質疑・意見交換

［黒瀬委員］

・　P7 の患者の視点に立った医療の提供において、中期目標期間中の自己評価を「２」としているが、達成状況（評価理由）の内容からは「２」と評価している理由が分かりづらいため、修正してはどうか。

［市立病院機構（広島市民病院長）］

・　この項目の中で、クリニカルパスについては、入院全体の適用率が目標値となっており、クリニカルパスが適用できない緊急入院が増えると適用率が下がってしまい、評価を下げることとなった。

・　第４期中期計画においては、予定入院患者のクリニカルパスの適用率を目標値としている。